

平成28年度 東蒲原郡国語部 活動報告

部長 伊藤 峰子

1 研究主題 「言語の力を育てる国語科の指導」

2 研究の概要

(1) 部会開催 5回

(2) 各回の内容

- 第1回 活動計画立案 講話(第2回)内容の要望とりまとめ
第2回 講話「言語活動の充実に向けて」
講師：阿賀町教育委員会 管理指導主事 中原 広司 様
第3回 研究授業単元に関する構想の紹介(構想を各自持ち寄る)
第4回 授業研究指導案検討会(授業者第1次案検討)
第5回 授業研究・協議会
授業者：阿賀町立三川小学校 天井 遥 教諭
単元名：「大すきなもの、教えたい」(光村図書2年)

3 研究の実際

(1) 第2回国語部会(講話)

阿賀町教育委員会指導主事 中原広司様を講師にお招きし、講話をお聞きした。

講話の内容について、事前に部員からの要望をお伝えした。単元を貫く言語活動、話すこと聞くこと、書くことなど言語活動の充実に関して、また、複式指導の授業モデルについて、要望以上に多岐にわたる具体的なご指導をいただくことができた。

(2) 第5回国語部会(授業研究・協議会)

【本時のねらい】

イメージマップをもとに、伝えたい事柄を選んで発表メモを作成することができる。

【授業の実際】

まず、大好きなものを紹介するモデル文をA B 2種類提示し、「どちらが1年生によく伝わるでしょう。」と、発表モデルを示した。児童は、「Bの方が『1つ目は、2つ目は』と書いていてわかりやすい。」「『うれしい』と書いていて気持ちが伝わる。」と構成や話し方のよさを挙げ、望ましいモデルを選択した。

次に、伝えたい事柄を書いたイメージマップから、特に伝えたい事柄を選択し、発表メモを作成する活動に入った。その際、選んだ事柄について、ペアで質問等をし合う活動を取り入れた。

最後に、内容の選び方やわかりやすい伝え方についてまとめた。

【考察】

教師が示したモデルは、児童に学習の見通しをもたせるのに有効であった。また、イメージマップは、伝えたい事柄を集め、書くことを苦手とする児童に意欲をもたせることもでき、有効であった。「伝えたい」という思いを込めるためには、イメージマップを作成する際に、事柄の項目として「気持ち」を入れさせるとよい。



4 成果と課題

(1) 成果

第3回部会で研究授業の構想を持ち寄った際、部員から多くのアイデアが出された。これらのアイデアを授業研究で用い、その有効性について協議できた。

(2) 課題

ペアでの交流活動の設定場面(取り入れるとよい場面)と、交流をより深める教師の指示や発問の仕方が今後の課題である。